

名屋組 「伊勢音頭」の歌詞

ここに示す歌詞は、調査の際に「得意な歌」「グループ独自の歌」「雰囲気を考えて歌う歌」などと依頼して、歌われた歌の歌詞である。

『伊勢音頭調査報告書』の中の「御坊祭の〈伊勢音頭〉」（以下、「報告書本文」）では、歌われた歌詞の「歌い出し」を記すことで表7にまとめ、歌詞の概観を行った。表7では、歌のふしの種類によって、「短い歌」「長い歌（紀小竹組にのみ「ながうた」という独自の呼び名がある）」「つなぎ歌（引き継ぎ歌、受け取り歌）」をまとめて示したが、ここでは、収録の際の歌われた順に示している。（歌のふしの種類については、「報告書本文Ⅱの表3」参照）。

なお、表記は、歌詞は黒字で、囃しことばは、音頭取りを赤字で、乗り子を青字で行っている。

歌詞のみ（囃し無）

◎歌い手（昭和60年生）

短い歌：日高川口に どんと打つ波は 名屋の若い衆の 男意気

短い歌：鯉の瀧登り なんとというて登る お水恋しゅと いうて登る

短い歌：今夜（こいさ）ここに寝て 明日の晩は何処で 明日は田の中 畔枕

長い歌：火事と喧嘩は お江戸の華だ あまた火消しのある中で 野狐三次は纏持ち
背（せな）に白狐の入れ墨を 入れた入れ墨 男伊達

◎歌い手（昭和55年生）

短い歌：とろりとろりと 廻るは淀の 淀の川瀬の 水車

短い歌：伊勢は良いとこ 菜の花椿 歌も懐かし 伊勢音頭

◎歌い手（昭和57年生）

短い歌：鯉の瀧登り なんとというて登る お水恋しゅと いうて登る

短い歌：行（い）たら見てこい 名古屋の城は 金の鯨 雨ざらし

短い歌：伊勢は津で持つ 津は伊勢で持つ 尾張名古屋は 城で持つ

歌詞（囃し有）

◎歌い手（昭和 60 年生）

サーヨーイ 日高川口に ヨイヨイ エー どんと打つ波はヨ サーヨーイ セーコラセ
ソーレ 名屋の若い衆の ヨーヨイソーレ 男意気ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイ 鯉の瀧登り ヨイヨイ エー なんと いうて登るヨ サーヨーイ セーコラセ
ソーレ お水恋しゅと ヨーヨイソーレ いうて登るヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイ 今夜（こいさ）ここに寝て ヨイヨイ エー 明日の晩は何処でヨ サーヨー
イ セーコラセ ソーレ 明日は田の中 ヨーヨイソーレ 畔枕ヨ ソラヤートコセ エエ
ヨーイヤナ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイ 火事と喧嘩はヨ ヨイヨイ エー お江戸のヨ 華だヨ サーヨーイ セーコラ
セ ソーレ あまた火消しのある中で ソーレ 野狐三次は纏持ち ソーレ 背（せな）
に白狐の入れ墨を ソーレ 入れた ナーエ 入れ墨 ヨーイソーレ 男伊達ヨ ソラヤート
コセ エエヨーイヤナ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

◎歌い手（昭和 55 年生）

サーヨーイ とろりとろりとヨ ヨイヨイ エー 廻るはヨ 淀のヨ サーヨーイ セーコラ
セ ソーレ 淀の川瀬の ヨーイソーレ 水車ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ハ
リバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイ 伊勢は良いとこヨ ヨイヨイ エー 菜の花椿ヨ サーヨーイ セーコラセ
ソーレ 歌も懐かし ヨーイソーレ 伊勢音頭ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ハリ
バンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

◎歌い手（昭和 57 年生）

サーヨーイ 鯉の瀧登り ヨイヨイ エー なんと いうて登るヨ サーヨーイ セーコラセ
ソーレ お水恋しゅと ヨーイソーレ いうて登るヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイ 行（い）たら見てこいヨ ヨイヨイ エー 名古屋の城はヨ サーヨーイ セー
コラセ ソーレ 金の鯨 ヨーイソーレ 雨ざらしヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイ伊勢は津で持つヨ ヨイヨイ エー津は伊勢で持つトヨ サーヨーイセーコ
ラセ ソーレ尾張名古屋はヨーイソーレ 城で持つヨ ソラヤートコセ エエヨーイ
ヤナ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

ヨーイヤッサイ